

令和 6 年度
「運営に関する計画」

大阪市立桑津小学校
令和 6 年 4 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では暴力行為や学級の荒れ等は見られず、児童は落ち着いた学習環境で学校生活を送っている。児童へのアンケート等による学校で認知したいじめはほぼすべて解消することができてきた。しかし不登校児童の在籍数に占める割合はここ数年増加している。要因は様々であるがコロナ禍で臨時休業や時差登校などで生活リズムが変わったり集団生活になじめなかつたりし、それが改善されていないことも大きな要因の一つとしてあげられる。生活指導部会、スクリーニング会議等、年間を通したスクリーニングシートの記録の活用等により生活指導上の諸問題を共通理解したり、個別に家庭と連携したり関係諸機関と連携したりする等、様々な取り組みにより解消を図っている。また、制限は緩和されてきたが、学校行事等の実施方法の変更、縮小等をせざるを得ないことがあり、児童が学校生活の中で楽しいと感じることが少なくなっていることは児童アンケートからも明らかである。

本校は昨年度まで3年間研究教科に国語科を掲げ、全教科に通じる読解力の向上に取り組んできた。全学年での授業研究会や日々の授業の中で、ワークシート等を活用することにより読み取りを深める実践を重ねてきた。また、授業では新学習指導要領で求められる主体的、対話的な学習を重視した展開を計画してきた。コロナ禍でグループ学習が難しい状況があり、対話的な学習を十分に進めるのは困難もあったが読解力の向上に一定の成果を収めることができた。

本年度より算数科を研究教科に掲げ、主体的な学習意欲の向上、基礎的、基本的な学力の定着を図っていく。これまでも基礎的、基本的な学習については単元毎に補充用プリントや学習用プリントを準備し、定着を図ってきた。デジタルドリルの活用頻度も増加してきている。今後さらにそれらを充実させていく必要がある。

体力、運動能力面では学年間の差は大きいが、コロナ禍で密を避けるため休み時間の運動場の使用制限をせざるを得なかつたことは、児童の体力、運動能力に少なからず影響していることは否めない。引き続き運動機会を増やし、広く運動能力の向上を図ることが課題である。

教育環境の充実では一人1台端末をはじめ、ICT機器を使った学習が定着してきている。本校でも使用頻度は年々上がってきている。今後もICT機器を使った効果的な学習にさらに積極的に取り組んでいく必要がある。

教職員の働き方改革については、本校は時間外勤務が大阪市の平均に比べ長い傾向にある。会議や行事の精選、ゆとりの日や退勤時間の設定等の取り組みにより、改善の兆しあはられるが十分ではない。教員がゆとりをもって児童と接し、教育活動を行える環境づくりが急務であると考えている。

なお、昨年度は体力、運動能力及び学習端末の活用については中期目標を達成したので上方修正し、働き方改革の目標については現状との乖離が大きいので下方修正した。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。

本校 **R5年度 80.0%**

- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を毎年前年度より減少させる。

本校 **R5年度 1.64%**

- 令和7年度末の校内児童アンケートの「学校へ行く（来る）のが楽しい」の項目の肯定的な回答の割合を毎年前年度よりも増加させる。

本校 **R5年度 低学年 86% 高学年 78%**

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度末小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率を、いずれの学年も対全国比より向上させる。

本校 **R5年度 国語 3年 0.99 4年 1.01 5年 0.96**

算数 3年 1.08 4年 1.01 5年 0.97

- 令和7年度末小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にする。

本校 **R5年度 67.1%**

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の児童アンケートの「日々の学校活動の中で学習用端末を活用している」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童の割合を、90%以上にする。

本校 **R5年度 81.3%**

- 令和7年度の「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を55%以上にする。

（基準1：1か月の時間外勤務時間が45時間以内かつ1年間の時間外勤務時間360時間以内）

本校 **R5年度 48.7%**

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

- ① 令和6年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。

本校 **R5年度 80.0%**

- ② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を毎年前年度より減少させる。

本校 **R5年度 1.64%**

- ③ 令和6年度末の校内児童アンケートの「学校へ行く（来る）のが楽しい」の項目の肯定的な回答の割合を毎年前年度よりも増加させる。

本校 **R5年度 低学年 86% 高学年 78%**

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ④ 令和6年度末小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率を、いずれの学年も対全国比より向上させる。

本校 **R5年度 国語 3年 0.99 4年 1.01 5年 0.96**

算数 3年 1.08 4年 1.01 5年 0.97

- ⑤ 令和6年度末小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を70%以上にする。

本校 **R5年度 67.1%**

【学びを支える教育環境の充実】

- ⑥ 授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕

- ⑦ 令和6年度の「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を55%以上にする。

（基準1：1か月の時間外勤務時間が45時間以内かつ1年間の時間外勤務時間360時間以内）

本校 **R5年度 48.7%**

大阪市立 桑津小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 令和6年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80.1%以上にする。</p> <p>本校 R5年度 80.0%</p> <p>② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を毎年前年度より減少させる。</p> <p>本校 R5年度 1.64%</p> <p>③ 令和6年度末の校内児童アンケートの「学校へ行く（来る）のが楽しい」の項目の肯定的な回答の割合を毎年前年度よりも増加させる。</p> <p>本校 R5年度 低学年 86% 高学年 78%</p>	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童理解にもとづく学級や学年づくりを進めるとともに、児童の様子について校内で共通理解をはかり、いじめを許さない学校をつくる。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 「桑津小学校みんな（安心）のルール」の徹底を図り、いじめを許さない学級・学校づくりをする。 学校教育活動全体を通して、子どもたちがお互いについて理解し合い、相手の立場に立って考える機会を設ける。 学期に一度いじめの校内調査を実施し、いじめの未然防止や早期発見に努める。 また、起こった事案に対しては迅速に対応し、早期に解決するよう取り組む。 	
結果と分析	
次年度への改善点	

<p>取組内容②【基本的な方向番号 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールライフノートを活用しながら、不登校になる可能性のある児童の早期発見に努める。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールライフノートの心の天気を毎日実施するように取り組む。 ・心の天気をもとに、児童に寄り添った対応を務める。 ・不登校児童を対象に別室登校などの環境を整える。 	
<p>結果と分析</p> <p>次年度への改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 	
<p>取組内容③【基本的な方向番号 1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動やみんな遊びの時間、係活動など様々な学校行事において、児童一人一人が安心して、前向きに取り組める環境を作り、良好な人間関係を作り出すことができるよう取り組む。 <p>【基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽鑑賞会や劇鑑賞会を通して、豊かな心情を育む。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集会やクラブ活動、委員会活動等の異学年交流を通して、多くの児童との関わりをもてるようにする。 ・各学級でみんな遊びの機会を設け、仲間づくりを図る。 ・学校行事において、児童が主体的に取り組めるよう、準備や計画を行う。 ・係活動や学校行事を通して、協力し合い、助け合う経験を積むことができるようにする。 ・情操教育の一環として、毎年一度、音楽鑑賞会や劇鑑賞会の機会を設ける。 	
<p>結果と分析</p> <p>次年度への改善点</p>	

大阪市立 桑津小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>④ 令和6年度末小学校学力経年調査における国語および算数の全国対比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。</p> <p>本校 R5年度 国語 3年 0.99 4年 1.01 5年 0.96 算数 3年 1.08 4年 1.01 5年 0.97</p> <p>⑤ 令和6年度末小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 70%以上にする。</p> <p>本校 R5年度 67.1%</p>	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容④【基本的な方向番号4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の学力の定着のために、自主的・継続的な学習を実施する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 年間を通じて、朝学習等の時間にデジタルドリルを利用した学習を行う。 <p>結果と分析</p> <p>次年度への改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> 	
<p>取組内容⑤【基本的な方向番号5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育科の学習で運動量を確保するような内容を工夫する。 児童の休み時間の外遊びを工夫する。 学校全体を通じて、児童が運動する機会や運動について考える機会を設定する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の運動量を確保するために、体育科の毎時間の授業で、説明や話し合いの時間を3分の1以内に收め、体をしっかり動かす時間を確保する。 「運動することの楽しさを広められるように、ポスターやなわとび・かけあしカードなどを活用した取り組みを学期に1回以上行う。 「なわとびタイム」「かけあしタイム」等、全校で運動に取り組む活動を1回以上設定する。 <p>結果と分析</p> <p>次年度への改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> 	

(様式 2-3)

大阪市立 桑津小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>⑥ 授業日において、児童の8割以上が学習用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕</p> <p>⑦ 令和6年度の「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を55%以上にする。 (基準1:1か月の時間外勤務時間が45時間以内かつ1年間の時間外勤務時間360時間以内)</p> <p>本校 R5年度 48.7</p>	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑥【基本的な方向6 教育 DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 朝の時間に心の天気を利用したり、桑津タイムにデジタルドリルを使用したりして学習用端末を使用する機会をさらに増やす。 テストが早く終わったときや学習が早く終わった際にデジタルドリルで復習問題に取り組ませ、学習の定着を図る。 教員がデジタルコンテンツをさらに有効的に活用できるよう研修会を行う。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 週の半分以上学習用端末を学校で使用する機会を作る。 タブレットに関する校内研修を長期休みなどに年1回以上行う。 <p>結果と分析</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>次年度への改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> 	
<p>取組内容⑦【基本的な方向番号7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 18時退勤とする。 月2回ゆとりの日を設け17時退勤とする。 2週間に1回（できれば1週間に1回）各自で定時退勤する日を設定する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 見通しをもって計画的に職務を進めるとともに、もし決められた退勤時間に退勤できないときは、施錠できる職員を待たせてその職員の退勤時間が遅くならないよう各自で施錠できるようにする。 	

- ・ ひと月の時間外勤務を45時間（60時間）を基準とし、近づいたら管理職が声をかける。

結果と分析

- ・
- 次年度への改善点
- ・